

学内各種データベースとの ゆるやかな結合による統合検索

九州大学附属図書館 荒木寛幸



プロジェクトの概要

大学が有する学術情報は多岐に渡り
目的に応じた複数のデータベースが学内に点在

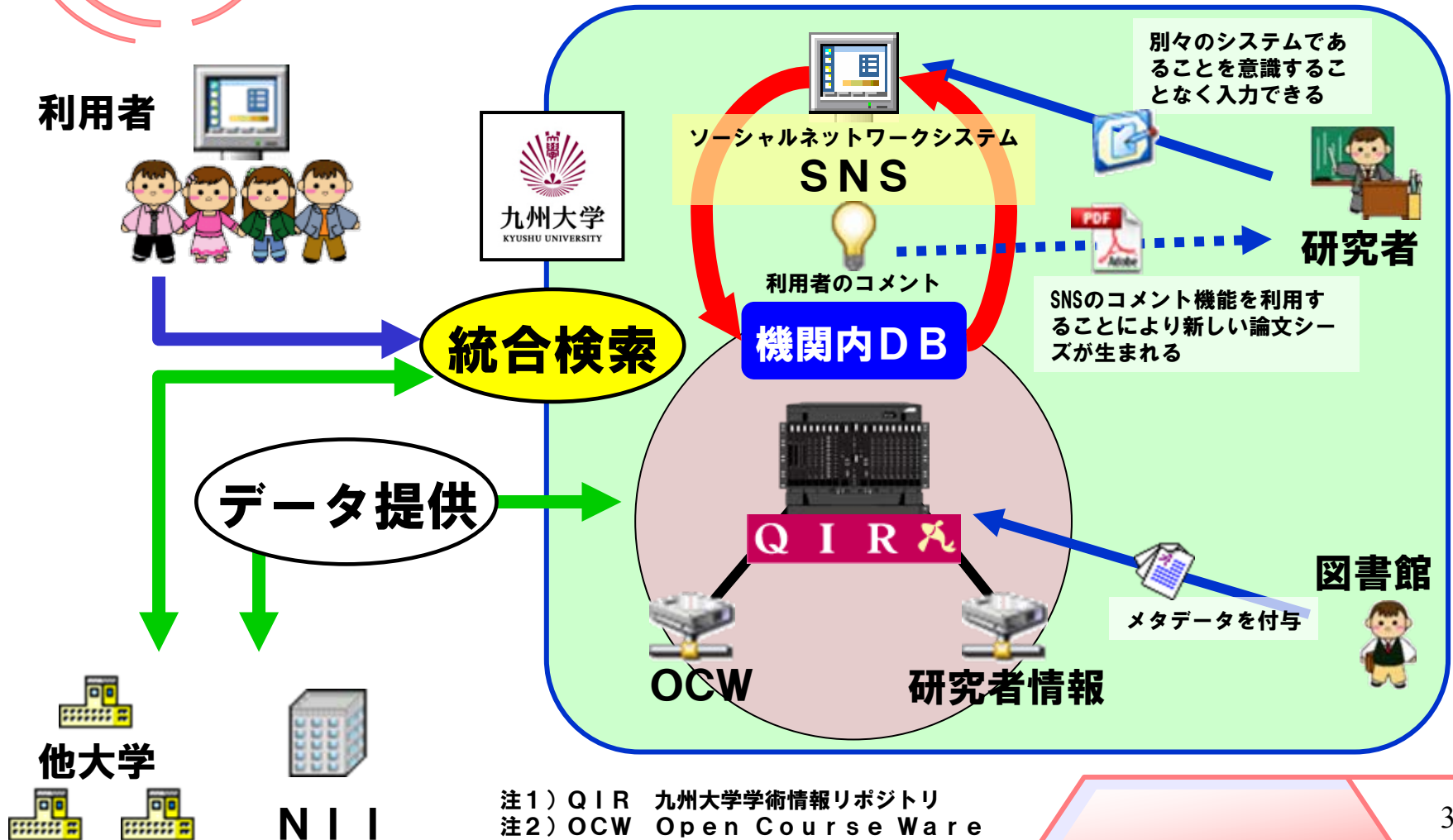
利用者はデータベースの所在を個別に探す必要がある

インターフェースを統一

利便性が向上

学術情報の発信能力は**飛躍的**に高まる

統合検索システム概念図



注1) QIR 九州大学学術情報リポジトリ

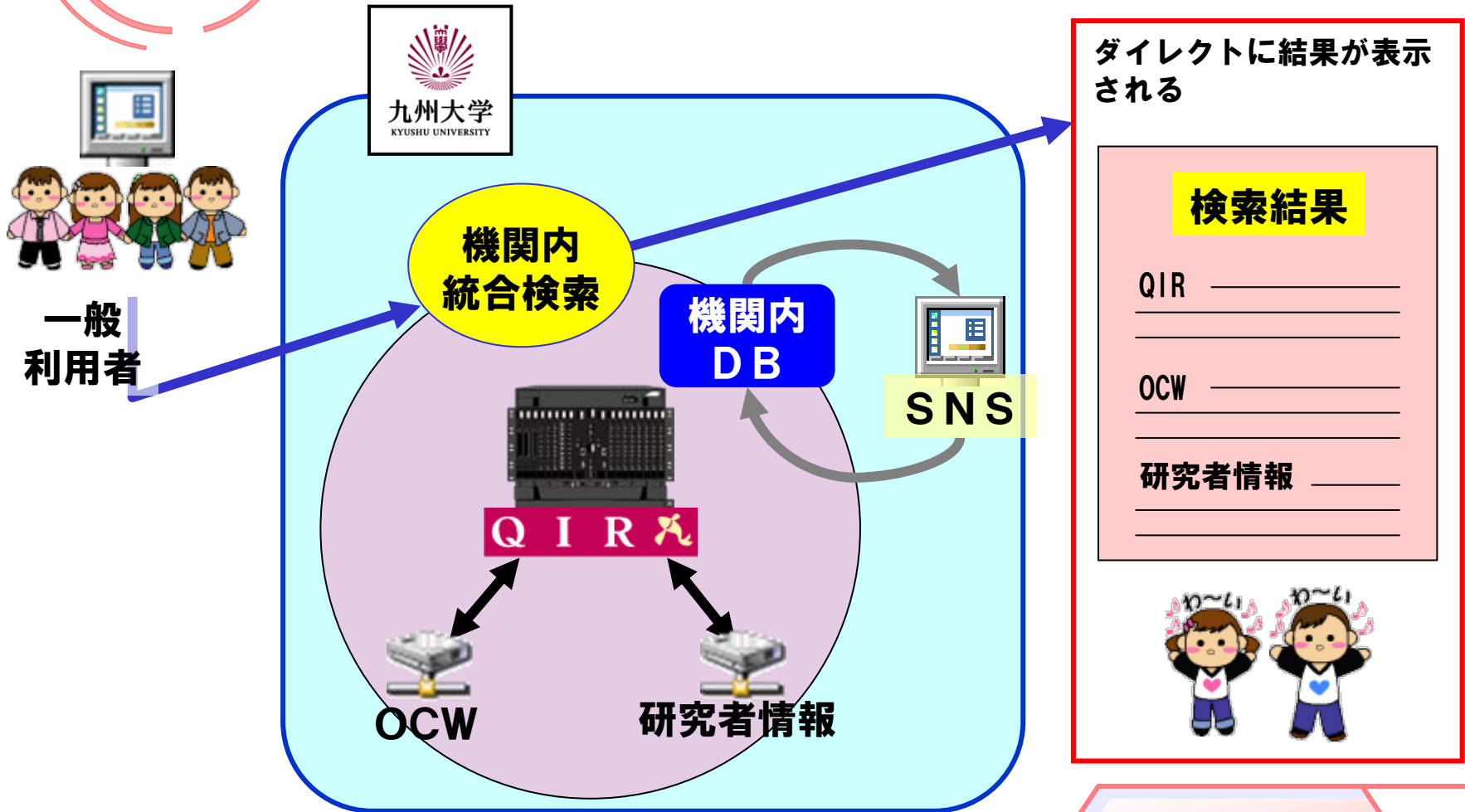
注2) OCW Open Course Ware

一般利用者の場合

機関内統合検索

S N S

バージョン管理システム



一般利用者の場合

機関内統合検索

S N S

バージョン管理システム

データベースを個別に探す必要がある

インターフェースを統一

利便性が向上

一般利用者の増加

機関内利用者の場合

機関内統合検索

S N S

バージョン管理システム

コメントも検索できる

機関内
統合検索

コメントも含めた全文検索によりダイレクトに結果が表示される

検索結果

QIR _____

OCW _____

研究者情報 _____

SNS _____



機関内利用者

SNSを通して
機関内の統合的
な検索をする



SNS

機関内
DB



Q I R 丸



OCW



研究者情報

機関内利用者の場合

機関内統合検索

S N S

バージョン管理システム

データベースを個別に探す必要がある

インターフェースをSNSに統一

利便性が向上

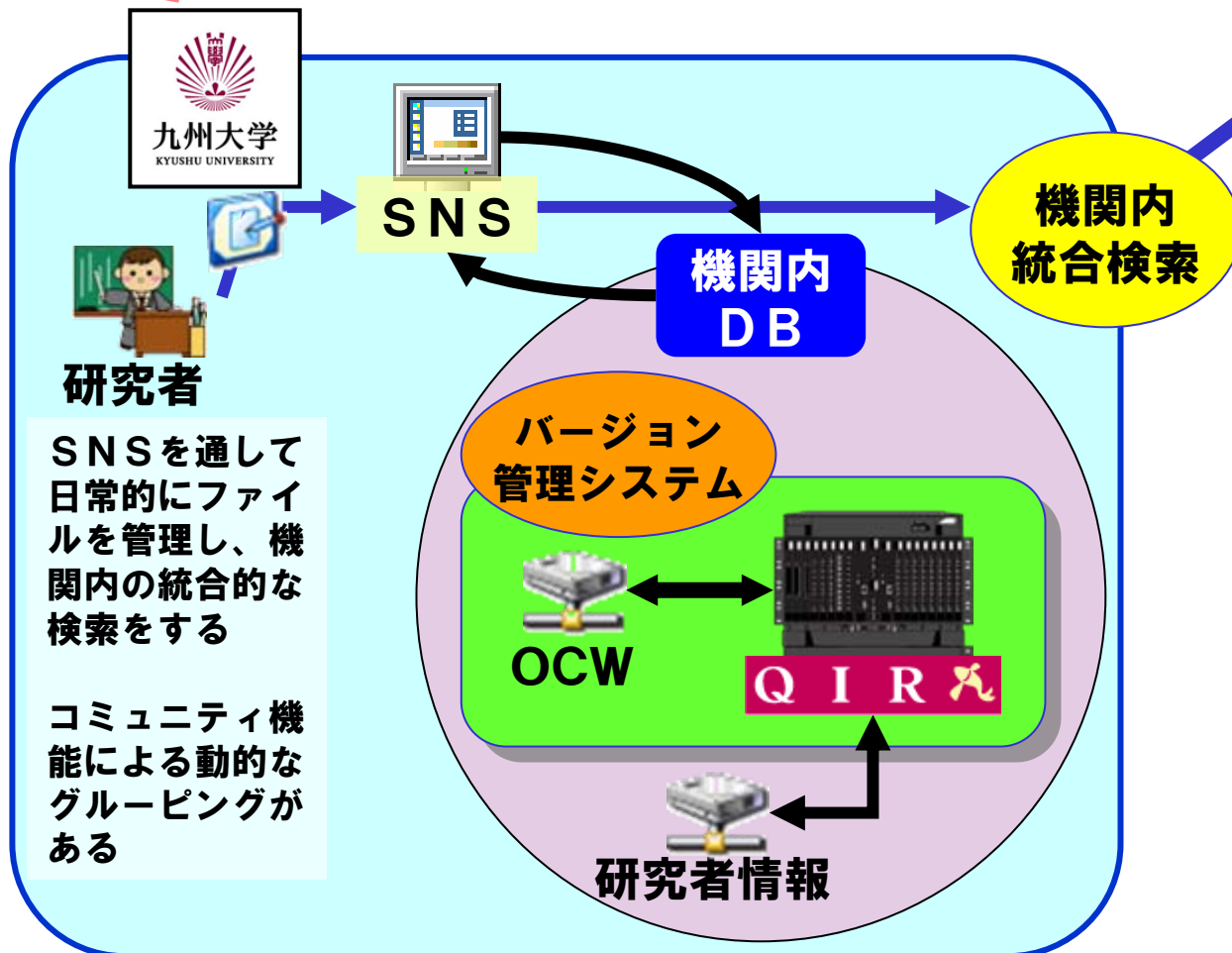
利用者の増加

研究者の場合

機関内統合検索

S N S

バージョン管理システム



コメントも含めた全文検索によりダイレクトに結果が表示される

バージョン管理システムによりファイル管理が可能

検索結果

QIR _____

OCW _____

研究者情報 _____

SNS _____

研究者の場合

機関内統合検索

S N S

バージョン管理システム

目的に応じたデータベースに登録する必要がある

インターフェースをSNSに統一

利便性が向上

全文検索システムで
検索がより便利に

ファイルの管理
が簡易になる

コメントによる
論文シーズの発掘

SNSの日常的な利用

平成18年度事業実施スケジュール

平成18年

△	5月 8日	データ連携等についての打合せ	(情報基盤センター)
△	5月10日	統合検索開発打合せ	(業者)
△	6月 6日	統合検索開発打合せ	(業者)
△	10月17日	現代GP (e-learningコンテンツ) 打合せ	
△	10月31日	現代GP事業担当者会議	
△	11月 1日	バージョン管理システム開発発注	(株式会社Fusic)
△	11月16日	現代GPシンポジウム「機関リポジトリとeラーニングコンテンツ」	
△	11月20日	バージョン管理システム開発打合せ	(業者)
△	12月 8日	バージョン管理システム開発打合せ	(業者)
△	12月26日	統合検索システム開発用サーバ納入	

平成19年

△	1月 9日	バージョン管理システム開発打合せ	(業者)
△	1月18日	バージョン管理システム開発打合せ	(業者)
△	1月29日	HPクローリング開発打合せ	(業者)
△	2月 1日	バージョン管理システム開発打合せ	(業者)
△	2月 9日	バージョン管理システム開発打合せ	(業者)
△	2月28日	バージョン管理システム納品	

平成18年度事業総括

① 学術情報資源の統合検索のモデル化

本プロジェクトで目指す統合検索の必要性と

目的のために必要な機能の検証

- 利用者は様々な学術情報資源がどこにあるかを意識することなく検索できる
- 特定少数のデータベースのみを統合して見せることも可能

厳格なメタデータを用いないモデルの提案

- メタデータの代わりにテキストデータを使用
- 通常の検索エンジンや検索ソフトウェア等を用いることが可能になる
- 論文以外のデータを対象にできる

付加価値データの検索対象化

- 論文等へのコメントも統合検索の対象に組み込む
- 千葉大学『研究コミュニティ創出支援』プロジェクトとの関連

平成18年度事業総括

② 学内組織との連携

4 情報基盤センターが運営する

Open Course Ware (OCW) と機関リポジトリとの連携

- テキスト検索の共通化、APIの開発、コンテンツのシステム間の移動、統合認証システムの導入等の可能性について検討

4 大学評価情報室が運営する

大学評価情報システムと機関リポジトリとの連携

- 金沢大学・早稲田大学との『業績DB・IR連携プロジェクト』との関連
- WebAPI的な手法により、異なる2つのシステムにほとんど手を加えることなく密接な連携を実現
- 大学評価情報システムのデータ抽出及び獲得方法について検証

平成18年度事業総括

③ システム構築

4 仕様策定

- データ連携のインターフェース部分を抽象化
- 必要な機能：データ抽出（相手側システムのアイテムから検索に必要なテキスト部分の抽出）、データ獲得（抽出したテキストデータの獲得）

4 既存システム調査

- 統合検索に必要な機能を有したシステムについて検討
- インデックスを作成しないテキストデータベースとしてShunsakuデータベース（富士通の商用テキストデータベース）を導入

4 テキストデータベース構築

- サーバ導入及び設置、データベースシステムのインストール、仮運用

平成19年度事業計画

一般
利用者



SNS

SNSを通して機関内を検索する。

このとき、SNSのコメントもLuceneを使用し全文検索の対象とする



機関内利用者

全文検索システム
Lucene

機関内
DB

Q I R

OCW

研究者情報

機関内
統合検索

Dspace1.4.1から全文検索システムLuceneが組み込まれている。

このLuceneを使用しメタデータに留まらず本文やコメントまでも含めた機関内のゆるやかな結合による統合検索の構築を目指す。